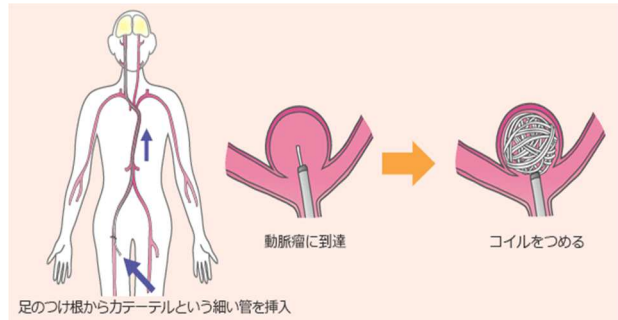


脳動脈瘤コイル塞栓術

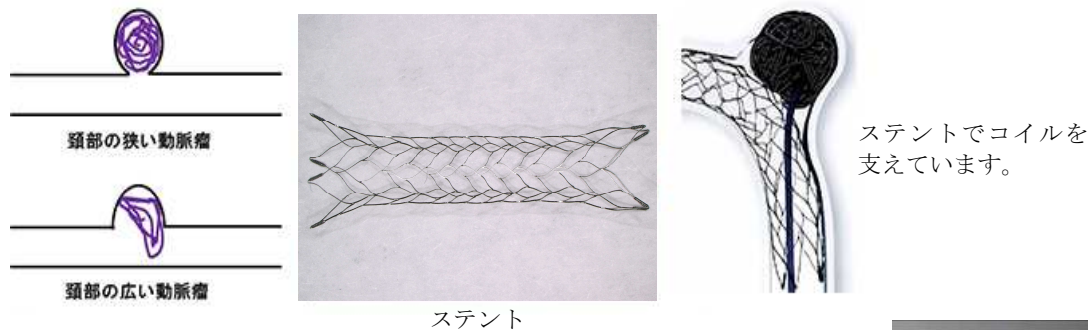
前回ご説明しました脳動脈瘤クリッピング術に続き、今回は脳動脈瘤コイル塞栓術につきご説明します。コイル塞栓術とは脳動脈瘤内にプラチナ製のコイルを詰めて、動脈瘤の破裂を予防する新しい治療方法です。従来の脳動脈瘤クリッピング術との大きな違いは、血管の中を通過して動脈瘤に到達するため、開頭する必要が無いことです。体への負担が少なく比較的高齢の患者さんにも安全に受けていただきやすい治療と考えています。

次にコイル塞栓術で使用する器具についてご説明します。



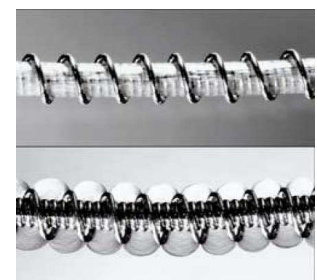
ステント

コイル塞栓術では動脈瘤の頸部が広いとコイルがはみ出してしまうため、頸部の広いタイプの動脈瘤は苦手とされてきました。平成25年から日本で動脈瘤治療にステントという器具を使用する事が出来るようになりました。ステントでコイルを支えて動脈瘤からはみ出ないようにして詰めることが出来ます。



ハイドロコイル

次にハイドロコイルについてです。コイル塞栓術ではコイルを詰め込み動脈瘤内の隙間を減らすことが成功の決め手となります。ハイドロコイルは濡れると膨らむ物質が埋め込まれていて動脈瘤内で体積が増えることで隙間を減らすことが出来ます。



クリッピング術に比べ比較的歴史の浅いコイル塞栓術ですが、近年目覚ましい発展をしており様々な器具の開発がなされています。これまで苦手としてきたタイプの動脈瘤にも対応出来るようになってきています。ご希望の患者様は脳外科担当医がご説明いたしますのでご相談ください。

脳神経外科は24時間体制で脳卒中診療を行っております。お気軽にご相談下さい。

TEL : 06-6672-3121 (代)